backlog by nulab

導入事例集

オフショア開発編



オフショア開発プロジェクトの課題と解決策

海外の開発企業・子会社、または現地法人に、ソフトウェアのシステム開発、運用保守などの業務を委託する「オフショア開発」は、多くのIT企業が採り入れています。人材の確保やコスト削減に有効なオフショア開発ですが、プロジェクトの推進にあたり課題に直面する企業も少なくありません。
本資料では、オフショア開発プロジェクトの課題を解決し、業務効率化を実現した企業の事例をご紹介します。

課題		解決策
言語・文化の違い　感覚や常識の違い 要件や仕様を伝える難しさ	»	**コミュニケーション　完了条件やゴールの共有　行き違いが生じない業務指示**
開発のブラックボックス化 進捗具合や内容の把握　品質の維持		**仕様・要件の明確化　進捗の可視化 タスク・担当の明確化**
手戻りや納期遅延による工数・コスト超過 プロジェクト管理ツールや管理のコスト		**工数・タスク管理　スケジュール管理 ツール・管理コストの見直し**

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

オフショア開発編

Case 1

PiraGo Viet Nam（ピラゴーベトナム）株式会社

https://backlog.com/ja/customers/case-study-pirago/

ベトナムのオフショア開発でBacklogを活用。精緻な工数・品質・コスト管理でサービス品質を向上



ベトナムのハノイに本社を置き、オフショア開発サービスを提供するPiraGo Viet Nam（ピラゴーベトナム）株式会社（以下、PiraGo）。取引先企業の9割が日本企業である同社では、開発プロジェクトの管理をはじめとして、社内のさまざまな業務にBacklogを活用中です。

- プロジェクトに関するやり取りや情報を一箇所に集約できるようになったことで、**お客様との円滑なコミュニケーションが実現**
- チャットツールの履歴を後から**検索する手間も削減**

- 「カスタム属性」機能を活用し、開発工程で発生する可能性のあるバグの種類や原因、発見したフェーズ、修正方法などを登録しておくことでサービス品質を向上
- 情報の粒度が揃い、**速やかな修正対応と原因分析・再発防止が可能**

- Backlogに起票した課題の中に、かかった作業時間を毎日記録。Backlog APIを活用した独自ツール「DevLog」に同期し、**プロジェクト全体の工数を確認できる**仕組みを構築
- 精緻な見積とアサインメントが可能に

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

アジャイル開発と親和性の高い“柔軟性”と“使いやすさ”がBacklogの魅力

―ほかのツールと比較して、どのような点で使いやすさやコミュニケーションの取りやすさを感じましたか？

大きく3つあります。1つ目は、わかりやすく使い勝手の良いUI/UXです。課題を一つひとつ起票して各タスクの管理ができる上に、ガントチャート機能やボード機能が見やすく、プロジェクトを俯瞰的に確認できる点が便利だと感じました。

2つ目は、料金の手頃さです。ユーザー数無制限のため、ほかのサービスと比べてコスト面の負担が少ないこともBacklogを選んだ大きなポイントでしたね。

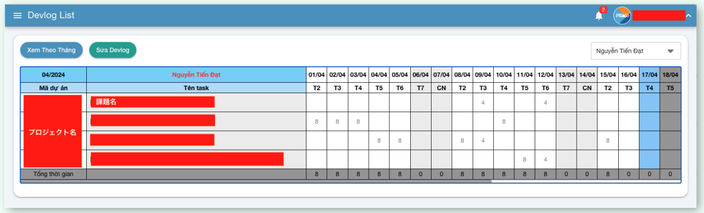
3つ目は、柔軟性の高さです。課題内では「子課題」を作成してより細かなタスク管理ができるほか、課題の進捗を表す「状態」や自由に入力項目を作成できる「カスタム属性」を自社に合わせてカスタマイズできる点も魅力的でした。私たちはアジャイル開発の手法を用いる場面が多いのですが、Backlogのカスタマイズ性は、アジャイル開発との親和性が非常に高いと感じています。

プロジェクト全体の工数管理と、開発品質の向上を実現

―開発部門における、Backlogの具体的な活用方法を教えてください。

それぞれの開発プロジェクトにおいて、開発工数とコストの管理にBacklogを活用しています。弊社は受託開発が多いため、工数が請求に直結します。そのため、より効率的な工数管理の実現に向け、Backlog APIを活用した独自ツール「DevLog」を自社開発しました。

エンジニアメンバーは、Backlogに起票した課題の中に、かかった作業時間を毎日記録しています。その後、Backlog APIを通じてすべての課題データをDevLogに同期し、別画面でプロジェクト全体の工数を確認できる仕組みを構築しました。これにより、メンバーはプロジェクトごとの稼働状況を一覧で確認できますし、プロジェクトマネージャーは全体の進捗や工数の管理が容易になりました。



PiraGoの開発した「Devlog」の画面。開発にかかる工数を日々登録しておくことで、プロジェクトごとの工数を一覧できる



―ほかにも、導入後に感じた効果やメリットはありますか？

Backlogは、受託開発サービスにおける品質向上にも役立っています。品質管理の面で特に重宝しているのが課題の「カスタム属性」の機能です。

たとえば、開発工程において何らかの不具合が発生した場合は、あらかじめカスタム登録しておいたバグの種類や原因や発見したフェーズ、修正方法などを入力するようにしています。そのデータをもとにレポートを作成し、速やかな修正対応と原因分析・再発防止に努めています。

Backlog導入によるメリットはそれだけではありません。新しいプロジェクトに着手する前に、Backlogから過去の実績を参照することでプロジェクトの正確な見積もりや計画、アサインメントが可能になったことも大きな変化です。過去のデータを見ながら、開発者、テスター、PMなど各役割の必要人数に関して最適な判断ができるようになりました。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

オフショア開発編

Case 2

遠鉄システムサービス株式会社

遠鉄システムサービス株式会社

https://backlog.com/ja/customers/case-study-ess/

日本とベトナムの共同開発プロジェクトを成功に導いたBacklog活用法

遠鉄グループの第二のシステム開発拠点として「遠鉄ベトナム有限会社」を設立し、本格的なオフショア開発の取り組みがスタート。Backlog、Cacoo、Nulab Passを活用し、円滑なプロジェクト推進と連携強化を実現しています。



- Backlog上に2言語でテキストを並記。異なる言語間の会話では、文字のコミュニケーションが誤解を防ぐ
- 2週間のスプリントごとにCacooを使ってふりかえりを実施

- 課題を起票する際には、担当者の割り当てと期日の入力を必須にするなどBacklogの運用ルールを決め、プロジェクト管理の基本を徹底
- 言葉で伝わりにくいときはCacooを活用し、絵や図解で説明を補足

- ガントチャート機能やボード機能でプロジェクトの全体像を把握。ベトナム側の進捗状況もリアルタイムに可視化
- Backlogはユーザー課金制ではないため、ユーザー数の増加や外部ユーザーの招待にも対応しやすい

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

異なる言語間の会話では、文字のコミュニケーションが誤解を防ぐ

▶ オフショア開発のプロジェクトにBacklogを活用して、どのような効果を感じましたか？

プロジェクトを進める中で欠かせない情報共有が円滑になり、タスクの抜け漏れやコミュニケーションの行き違いなども起こらずに済みました。海外とのやり取りは言語や文化の違いもあり、口頭での会話のみだと意図がしっかり伝わらないことがどうしても起こります。しかし、Backlog上での文字のコミュニケーションは比較的、誤解が生まれにくいと感じました。

また、課題の中に「決まったこと」だけでなく「この仕様に決まった背景」を記載しておくことで、後から細かな経緯も確認しやすかったです。

Backlogの課題にきちんと情報を登録できていると、ガントチャート機能やボード機能でプロジェクトの全体像をしっかりと把握できます。課題を起票する際には、担当者の割り当てと期日の入力を必須にするなどBacklogの運用ルールを決め、プロジェクト管理の基本を徹底しました。その結果、ベトナム側の進捗状況もリアルタイムに可視化され、安心してプロジェクトを進められました。

▶ ベトナム側のメンバーからは、どのような反応がありましたか？

最初から操作に関する質問はほとんどなく、UI/UXが直感的で使いやすかったのではないかと思います。ベトナム側のリーダーからは「メンバーのアサインや期日の管理がしやすかった」と、ポジティブな感想もありました。

言葉で伝わりにくいときは絵や図解で説明するのが有効

▶ Cacooはどのように活用していただいたのでしょうか。

各スプリント終了後にCacooを活用してKPT法*を用いたふりかえりを3社で実施しました。こちらも操作性がシンプルで非常に使いやすかったです。継続的なふりかえりによって、お互いの考えを知ることができましたし、結果、コミュニケーションが円滑になっていったように思います。

*KPT法とは：行動や結果を「Keep（継続したいこと）」「Problem（改善すべき課題）」「Try（新しくやってみたいこと）」の3つの観点から整理して、プロジェクトや活動を振り返るフレームワーク

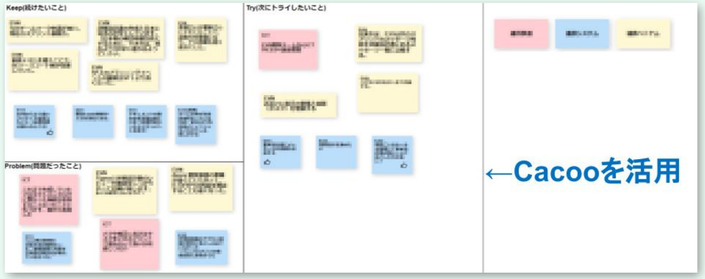
▶ Cacooも日本とベトナムの双方で使っていただいたのですね。

ふりかえりの場以外でも、複雑な仕様に関して補足やディスカッションが必要なケースにはCacooが活躍しています。やはり言語が違うため、言葉で伝えるのが難しい内容は、絵や図解を交えてやり取りすると共通の認識を持ちやすいですよね。

たとえば、ただ丸で囲むだけでそこを強調していることが視覚的に伝わりますし、矢印を書き加えれば、業務の流れや方向性がひと目でわかりやすい。Cacooは、リアルの会議室にあるホワイトボードのような役割を果たしてくれています。



Backlogのタスクを起票→翻訳者が翻訳
文字のコミュニケーションは比較的、誤解が生まれにくい



2週間に1回 KPT法を使った振り返りを実施



プロジェクトのタスク管理はBacklogをフル活用

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

オフショア開発編

Case 3

株式会社SLiC

https://backlog.com/ja/customers/case-study-slic/

スリランカと日本をつなぐ。
オフショア開発プロジェクトで活躍するBacklogとCacoo



日本とスリランカに拠点を置き、ソフトウェアの設計・開発をはじめコンピューターネットワークのSI事業や輸入販売事業を展開する株式会社SLiC。同社では、日本のプロジェクトマネージャーとスリランカのエンジニアがワンチームとなって進めるオフショア開発のプロジェクトにBacklogとCacooを活用しています。

- Backlog上に2言語でテキストを並記。
- プロジェクトに関するやり取りは翻訳者を介し、必ずBacklogに起票するルールを徹底。チャットや現場での会話が共有されないことに起因するトラブルを回避

- 課題のテンプレートを活用。情報の粒度や形式を細かく指示・記載しておくことで完了条件を共有
- 課題やWikiに絵や図解を貼り付けて説明を補足。「百聞は一見にしかず」で指示が伝わりやすく、高いクオリティを維持

- 入れ替わりの多い海外エンジニアのメンバーも、アカウントの増減による手間やコストが不要
- Backlogにルールや過去の経緯、手順が蓄積されているため、新しいメンバーのオンボーディングにかかる工数も削減

※今後Backlogでは、「Wiki」で提供しておりましたナレッジ共有機能を「ドキュメント」に集約してまいります。詳しくはこちらをご覧ください。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

異なる言語、文化、商習慣の中で進める業務の課題とBacklog活用の効果

▶ スリランカと日本。海を挟んでのプロジェクトで一番大きな課題を教えてください。

国も文化も異なりますので、言語だけでなく感覚や常識の違いもあります。たとえば、日本人が思う「完成」と、スリランカ人の「完成」のイメージは違います。お互い自分たちの常識だけで考えていると、すれ違いが起きてしまうのです。

▶ そういった感覚の差はオフショア開発の中では往々にしてありそうですね。

ドキュメントの形式一つでもかなり違いますね。フォントはどれにするのか。右寄せか左寄せか。色や図の配置など細かな点でも国や個人によって感覚は異なります。しかし、日本の感覚に合わせてもらうために、作業前に毎回確認したり指示したりするのも、修正を依頼するのも手間がかかってしまいます。Backlogの課題を起票する際も、どんな情報で、どのような手順で進め、何をチェックして、どうなったら完了、といった定義やゴールを明確にしておかなければ、粒度にかなりのバラつきが生じてしまいます。

その点、Backlogの課題にあるテンプレートを活用すれば、こちらの要求している情報の粒度や形式が、視覚的に一瞬で伝えられます。指示する工数は大きく削減できていると感じますね。

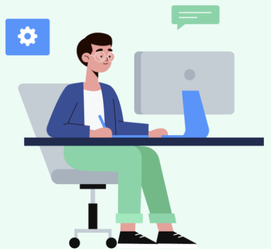
▶ 言葉や習慣が異なっていても、してほしいことが一目瞭然になったのですね。

まさに「百聞は一見にしかず」です。細々とした依頼や修正をしなくても体裁をすぐ理解してもらえます。しかも高いクオリティが維持できる。オフショア開発でのお互いのストレスが、ずいぶん緩和されました。

▶ コミュニケーション面の効果はありましたか。

これまで情報の抜け漏れに悩まされていましたが、Backlog導入後は、格段にそれが減りました。「プロジェクトのやり取りは、通訳者を通じて必ずBacklogに起票する」ということだけを徹底したところ、チャットや現場での会話が共有されずに起こるトラブルが、ほぼなくなったのです。そのおかげで、引き継ぎもシンプルになりました。

海外エンジニアのメンバーは頻繁に入れ替わります。その都度、手順やルールをレクチャーしてきましたが、今はそれも最小限です。Backlogを検索すれば、過去の経緯も進行状況もすぐわかる。タスクを渡すのも、Backlogなら「こちらを複製して課題を作ってください」と伝えるだけで、すぐにキャッチアップできます。本当に楽になりました。







自社の流儀に合わせてカスタマイズできる

▶ より便利にご活用いただくため、工夫していることはありますか。

課題の「状態」を業務の工程に合わせてカスタマイズしています。レビューのフェーズを「社内」と「クライアント」に分けたり、開発機能ごとにカテゴリを作ったりもしています。

▶ 背景色やアイコン設定も便利にお使いいただいているとか。

私たちは常時、複数のプロジェクトを並行して進めています。ですから相手先を間違えるミスは必ず避けたいところです。Backlogでは背景色やアイコン設定を変えることができます。背景色を変えることで、一目でどのプロジェクトかわかるようになり、ミス防止に役立っています。

プロジェクトによってマークダウン記法とBacklog記法を分けることも意識しています。マークダウン記法はエンジニアやIT関係の方には好まれますが、ITに馴染みがない方にはBacklog記法がわかりやすいようです。初心者にも扱いやすいし、高いITリテラシーを持っている方の要望にも、しっかり寄り添ってくれるところが、Backlogの強みだと感じます。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

オフショア開発編

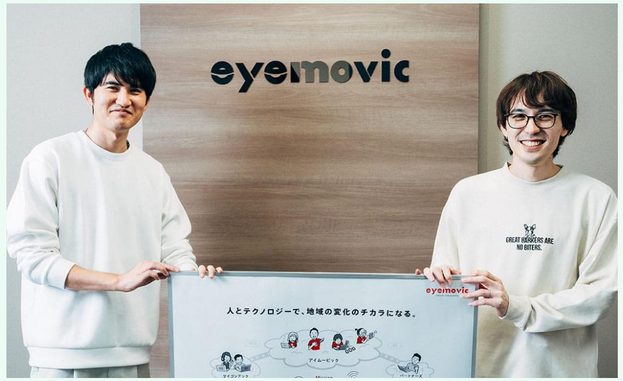
Case 4

株式会社アイムービック

https://backlog.com/ja/customers/case-study-eyemovic/

オフショア開発のチームワークマネジメントにBacklogが貢献！ベトナムとのスムーズな進捗管理の秘訣とは

株式会社アイムービックでは、ベトナムとのオフショア開発にBacklogを活用。スムーズな進捗管理やバージョン管理を実現しています。「共通ルールの整備」「業務の見える化」「役割の明確化」など、国を越えたプロジェクトにおけるチームワークマネジメントのカギを教えていただきました。



- **ブラウザの翻訳機能**を活用してBacklogに入力した日本語をベトナム側で英語に翻訳
- 価値観の違いを尊重した上での**「共通のルールづくり」「業務の見える化」**で、不備やトラブルを避ける

- 課題の**テンプレートを活用して業務に必要な情報が一目でわかる**ようになり、日本・ベトナム双方が安心して業務できる
- 進行に応じて**課題の担当者を切り替えることで役割や責任を明確**にし、不備の防止や品質維持が実現

- **ガントチャート**で進捗管理が効率化し、早い段階で担当者をサポートできる
- Gitを活用してBacklogで直接ソースコードを共有でき、**バージョン管理**が容易

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

価値観の違いを尊重した上での「共通のルールづくり」「業務の見える化」が重要

▶ ベトナム側のメンバーとは、どのようにコミュニケーションをとっていますか？

コミュニケーションにはブラウザの翻訳機能を活用し、Backlogに入力した日本語をベトナム側で英語に翻訳します。オフショア開発では、コミュニケーター（通訳）やブリッジSE（通訳と開発面のマネジメント両方を担う人）と呼ばれる人材がいて、場合によっては彼らが言語の壁や認識の齟齬を解消することもあります。

言語だけでなく、ベトナムとは働き方や価値観の違いもあります。ですが、一緒に仕事する上で大切なのは違いを尊重した上で、業務管理のプロセスを確立していくことだと思うのです。お互いに理解しあってオープンな環境で業務を共有することが、ワンチームでプロジェクトを進める第一歩になります。そしてそのためには、Backlogのようなツールでの「共通のルールづくり」「業務の見える化」が必要です。

▶ 共通のルールと業務の見える化ですね。具体的にどのような工夫をしていますか？

進捗確認では主にガントチャートを活用しています。スケジュールの流れが見えて、遅れているタスクや遅れそうなタスクが一目瞭然なので、状況に応じて担当者の業務をサポートできています。

タスクの登録時には「誰が・いつまでに・何をするか」を明確にしているほか、タスクのテンプレートを作れるので、業務に必要な情報が一目でわかります。しっかりとテンプレートに落とし込んだ上でタスクを渡すことで、双方が安心して業務を進められます。

進捗管理とバージョン管理が効率化。Backlogを使うベンダーが増えてほしい

▶ 開発業務での効果を教えてください。

進捗管理とバージョン管理を効率化できたのが大きな効果です。Backlogではタスクを登録すればガントチャートなどで進捗管理も同時にできるため、管理コストを大幅に削減できました。

また、BacklogではGitを使えます。この機能のおかげでソースコードの変更履歴を把握しやすく、言葉だけでは説明しにくい場面でもBacklogで直接ソースコードを共有できるので、確認や指示が円滑になりました。ちょっとバージョンアップするのに新規ファイルを作ってファイル名や日付を区別して・・・という手作業はやっぱり面倒なので、Backlogでバージョン管理できるようになった時間的な効果は大きいですね。Backlogを使うITベンダーさんがもっと増えるといいなと思います。

▶ バージョン管理の効率化は、複数プロジェクトを同時進行する上でも必要ですね。

Backlogは1つのワークスペースの中でプロジェクトをスムーズに切り替えられますし、全体の通知も一括で確認できるため、同時進行が容易ですね。30件ほどのプロジェクトが進行していますが、プロジェクトごとにテーマ色を変えられる機能も、視覚的に識別しやすく便利です。

また、Chatworkとの連携で、Backlogの更新通知をChatworkでも受け取れるようになり、プロジェクトごとの基本的なコミュニケーションと業務タスクを切り分けて管理できています。



部門や国を超えたメンバーと働く上で、チームワークマネジメントの重要性を実感

▶ 部門や国を超えたメンバーと効果的に業務を進める、御社のチームワークマネジメント術をお伺いできました。

チームワークマネジメントは、これからのプロジェクトでも欠かせないプロセスだと実感しています。

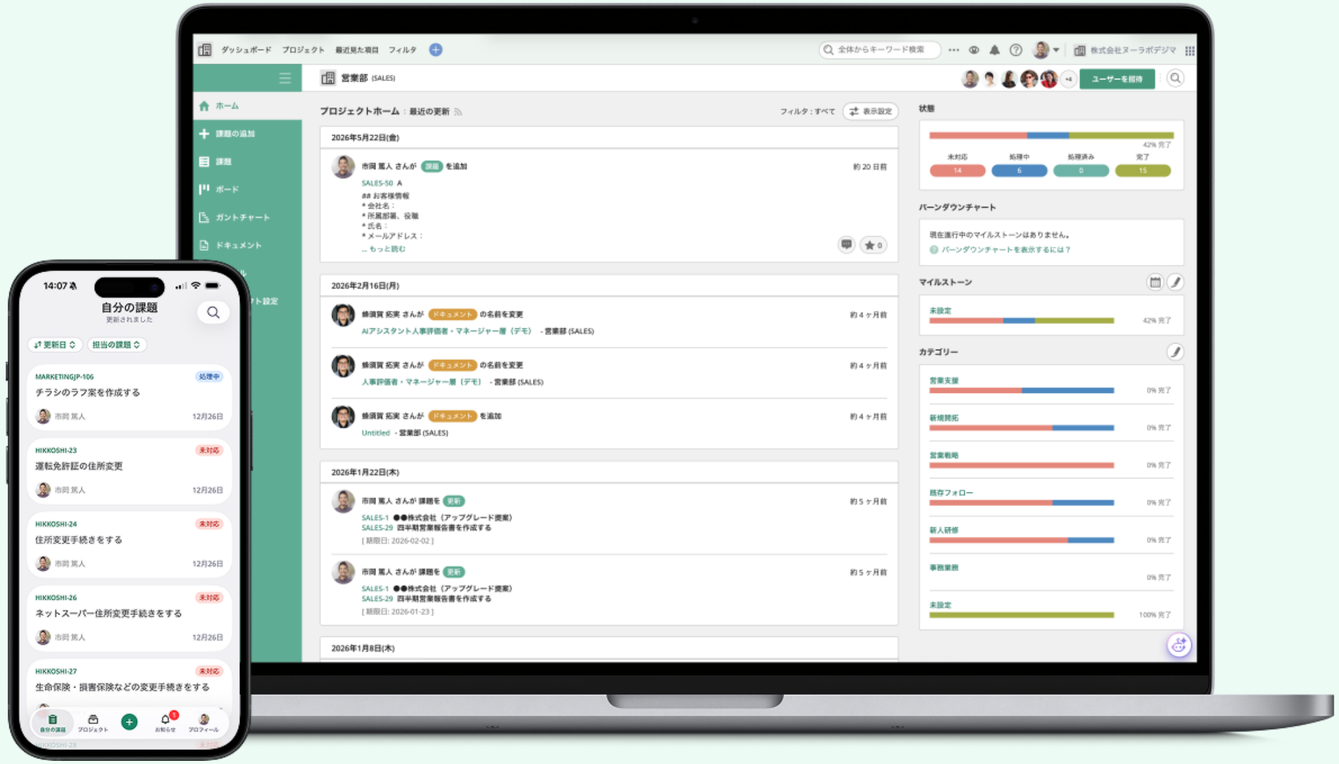
ベトナムは若いメンバーが多く、意思決定スピードも早いんです。成果が報酬に直結することから仕事を前進させようという意識がとても高く、学ぶことが多いです。彼らとともにプロジェクトを成功させるためにも、チーム内での明確な役割分担と業務の見える化、そしてその実績をログとして蓄積して次に活かしていかなければなりません。そのために、Backlogのようなツールを活用したタスク管理が必要だと思います。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

チームで使える
プロジェクト・タスク管理ツール

Backlogはシンプルな操作性と親しみやすい見た目で、

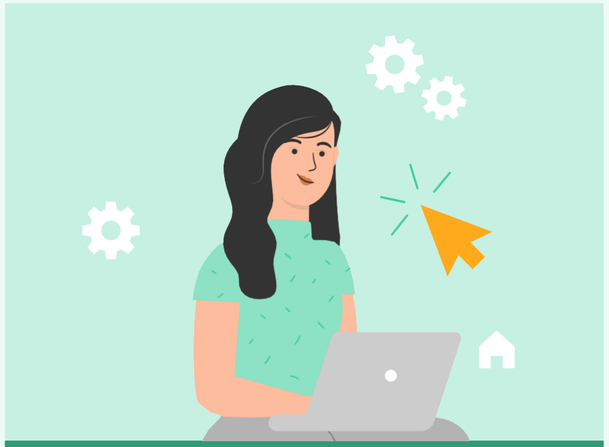
誰でも直感的に使えるプロジェクト・タスク管理ツールです。



© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

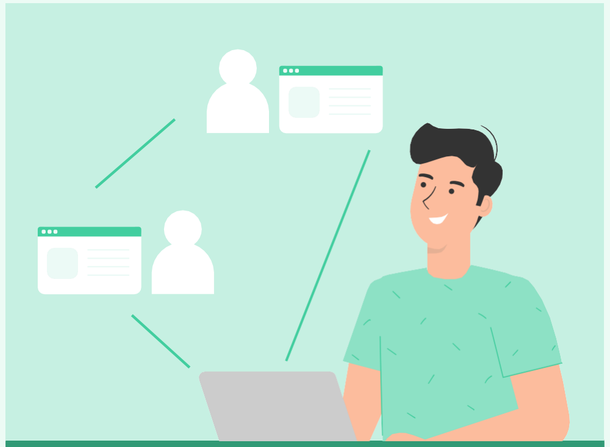
backlog by nulab

驚くほど「簡単に」
プロジェクト・タスク管理ができる



シンプルな画面（UI）

直感的で
ユーザーフレンドリーな
デザイン



進捗状況を視覚的に管理

チームメンバーの担当作業と
進捗状況が
簡単に見える化



コミュニケーションや情報共有が円滑に

タスクに紐づいた
コミュニケーションで
情報の分散を防ぐ

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

backlog by nulab タスク管理の悩みを解決

| 導入前 |

- 誰のタスクなのか？
- タスクの期限・担当者の進捗状況がわからない
- Excelでの進捗管理は更新に時間がかかる

どのタスクをいつまでにやるのか把握が煩雑



| 導入後 |

- タスクの担当者、進捗状況が一目でわかる
- 進捗状況はメンバーが更新常に最新情報を反映

タスクの見える化で着手漏れ・期限遅れなし

メンバーのタスクを見える化　　チームのパフォーマンス UP

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

チームの仕事を、前に進める

Backlog AIアシスタント



Backlogに蓄積された情報をもとに、日々の業務判断と進行を支援！
（入力・出力データは学習に利用されません）

- 課題の作成、要約
- ナレッジ検索
- プロジェクトの状況整理
- レポート生成
- メンバーの課題進行状況
- 評価準備 など

※Backlog AIアシスタントのご利用条件等、詳細はこちらをご覧ください。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

オンラインセミナー・トライアルのご案内

チームでのプロジェクト・タスク管理に課題をお持ちの方は、
Backlogの無料オンラインセミナーや無料トライアルをご利用ください



オンラインセミナーの概要

- プロジェクト・タスク管理のBacklogとは？
- Backlog導入でどんなメリットがあるの？
- 実際のBacklog画面を見ながら利用シーンを紹介

オンラインセミナーはこちら



トライアルの概要

- 30日間無料で利用できる
- フォームに情報を入力すると、すぐに開始
- プランの全機能が使える

無料トライアルはこちら

サービスページはこちら

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

会社概要

社名	株式会社ヌーラボ
設立	2004年3月
事業内容	チームのコラボレーションを促進するサービスの開発・提供 ● プロジェクト・タスク管理ツール『Backlog』 ● オンラインホワイトボードツール『Cacoo』 ● ヌーラボ製品のセキュリティ＆ガバナンスを強化する『Nulab Pass』 ● ワークフロー自動化ツール『Nulab Flowbase』
本社	福岡県福岡市中央区天神一丁目11番1号

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.